

中部様式
(調査事業)

令和2年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要 (全体)

豊明市地域公共交通活性化協議会

平成28年4月1日設置

調査事業 (計画策定) 令和4年3月 地域公共交通計画策定予定

【地域の特性について】

- 人口 68,826人 (R2.12.1時点)
- 高齢化率 26.1% (R2.12.1時点)
- 東西の交通軸 (国道1号線、伊勢湾岸自動車道) と、南北の交通軸 (県道瀬戸大府線) を有し、広域交通体系は比較的充実
- 通勤・通学流動は、名古屋市をはじめ、刈谷市、豊田市、大府市との結びつきが強い

【地域公共交通の現況】

- 3駅有する名鉄名古屋本線と前後駅を拠点とする名鉄バスが交通幹線軸を形成
- ひまわりバスが市内各拠点、主要施設及び人口密集地を密に循環
- 交通空白地域には、チョイソコとよあけが公共施設までの支線的役割を担う
- 市内に営業所を持つタクシー会社2社が、個別ニーズに柔軟に対応

人口減少等による利用者の減少、移動ニーズの多様化などに対応するため、既存の公共交通サービスを最大限活用した上で、その他多様な輸送資源についても最大限活用することで持続可能な地域旅客運送サービスの提供を確保します



資料) 第5次豊明市総合計画



資料) 豊明市地域公共交通網形成計画

- ・地域公共交通網形成計画の目標の達成状況を把握・評価するため各種調査を実施
- ・地域公共交通計画策定に向けた各種調査を実施

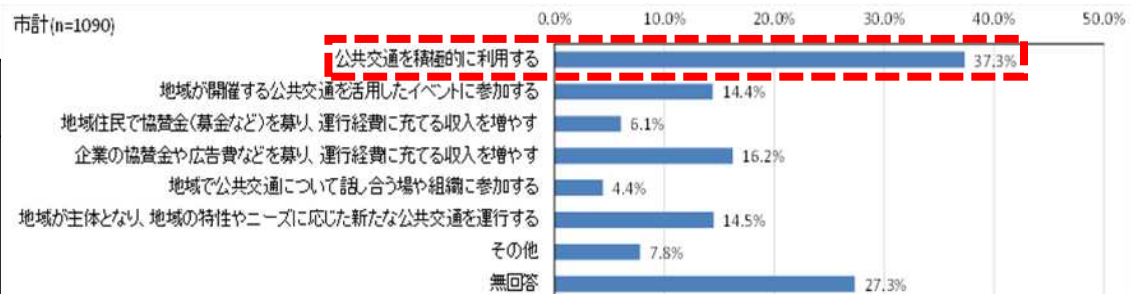
表：各種ニーズ調査の実施内容

調査種別	調査目的	調査結果
市民アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用条件、利用意向、普段の外出状況、コロナによる公共交通利用頻度の変化などの把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・15歳以上の市民3,000人対象 回収1,362票（回収率45.4%）
バス利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの利用状況、満足度、社会的機能や求める役割、移動ニーズなどの把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>名鉄バス</u> 配布1,398票 回収333票（回収率23.8%） ・<u>ひまわりバス</u> 配布381票 回収134票（回収率35.1%）
チョイソコとよあけ利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・チョイソコの利用状況、外出機会の変化、外出促進イベントのアイデアなどの把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>チョイソコ</u>の利用実績がある会員600人対象 回収177票（回収率29.5%）

2.公共交通に関する調査概要（網形成計画目標の評価）（Do）

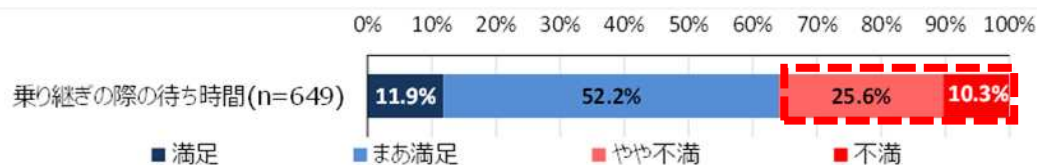
▼アンケート調査で見る評価項目

評価項目	実績値 [R2]	目標値 [R3]	現況値 [H28]
公共交通を積極的に利用している人の割合	37.3% △5.9%	50.0% 以上	43.2%



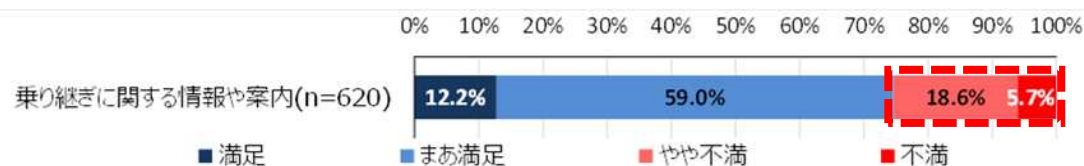
(R2 市民アンケート)

評価項目	実績値 [R2]	目標値 [R3]	現況値 [H28]
乗り継ぎの際の待ち時間に関する不満度	35.9% +0.5%	20.0% 未滿	35.4%



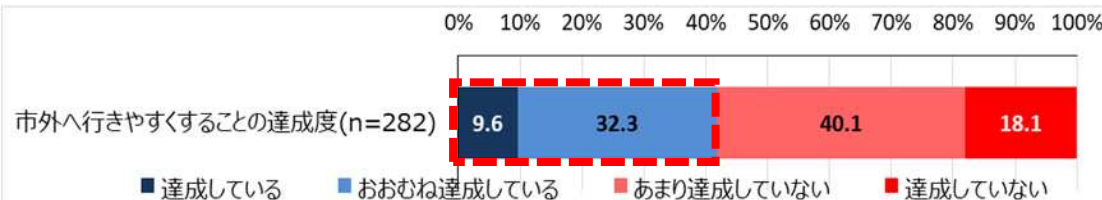
(R2 バス利用者アンケート)

評価項目	実績値 [R2]	目標値 [R3]	現況値 [H28]
乗り継ぎに関する情報や案内	24.3% △3.0%	20.0% 未滿	27.3%



(R2 バス利用者アンケート)

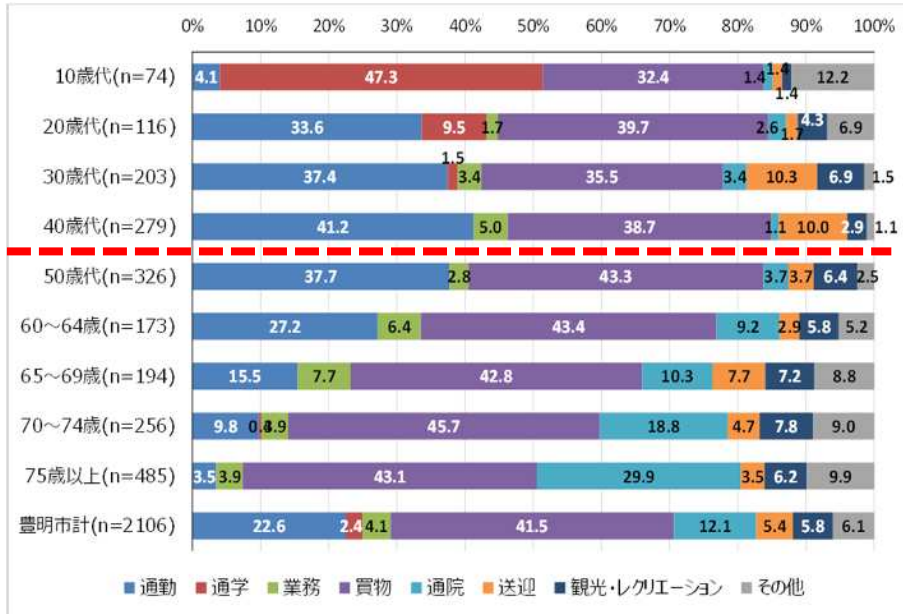
評価項目	実績値 [R2]	目標値 [R3]	現況値 [H28]
市外へ行きやすくすることの達成度	41.9% △0.3%	50.0% 以上	42.2%



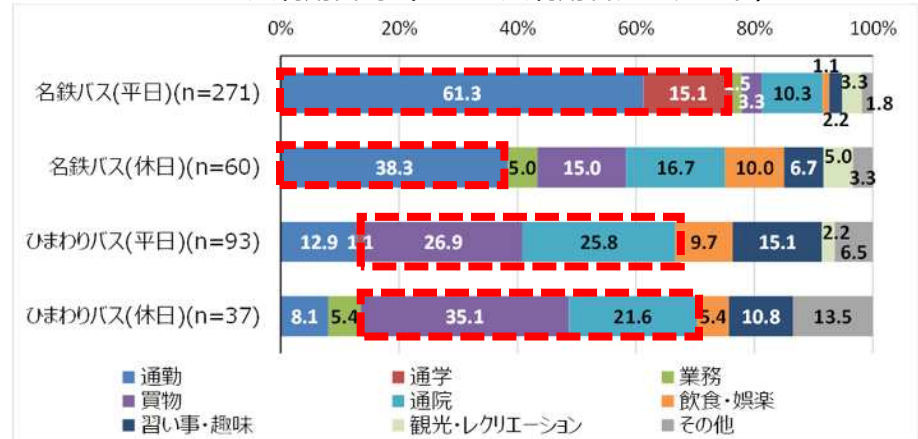
(R2 バス利用者アンケート)

・改善されたものもあるが、現時点では目標値に達している評価項目はなかった。
⇒市から上手く情報を発信することで改善につながる項目が多いと感じる。今後は、ホームページ、広報、地域の回覧などを用いて住民に向けて継続的な情報発信をしていきたい。

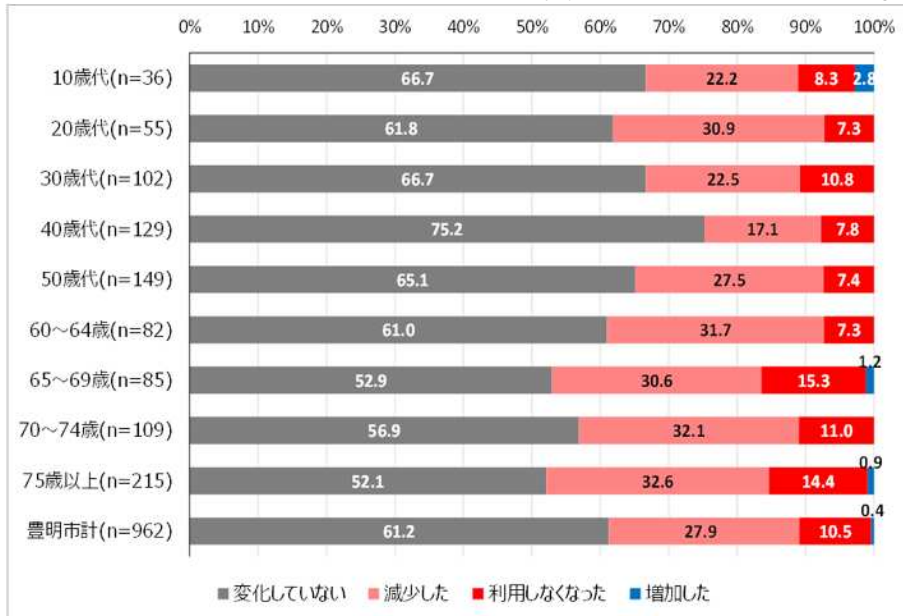
▼普段の外出目的（R2 市民アンケート）



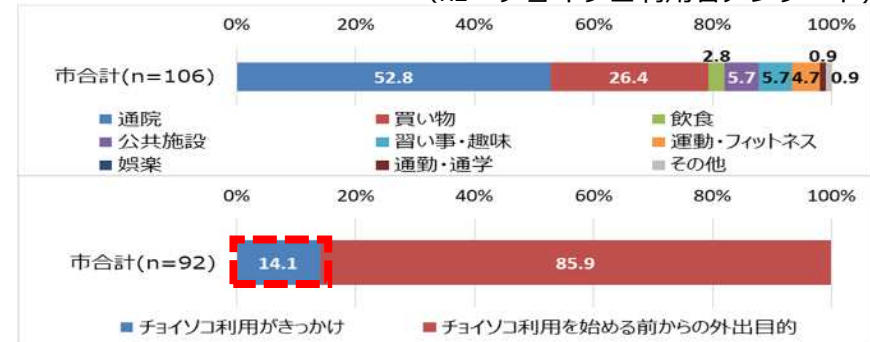
▼バス利用目的（R2 バス利用者アンケート）



▼コロナ禍における公共交通利用頻度の変化（R2 市民アンケート）



▼（上）最も多い外出目的（下）チョイソコによる外出機会の創出（R2 チョイソコ利用者アンケート）



- 普段の外出目的は、50歳代以上は「買物」、40歳代以下は「通勤」「通学」が多い
- 全年代において、コロナによる公共交通利用頻度の減少傾向が表れた
- バス利用目的は、平日・休日ともに名鉄バスは「通勤」、ひまわりバスは「買物」が最も多いほか、「通院」も多い
- チョイソコの利用がきっかけで、最も多い外出目的を創出できた方も存在する

前ページの集計結果を元に分析

分析結果（中間）

- 普段の外出目的は「買物」が最も多い中、年代が重なるごとに「通院」が多くなる。
- コロナ禍における公共交通利用頻度の変化について、「減少した」が27.9%、「利用しなくなった」が10.5%を占めており、コロナ感染拡大の影響による、生活スタイルの変化が、公共交通の利用頻度を大きく変化させている。
- バス利用目的を見ると、名鉄バスが「幹線系」のバスとして**通勤や通学**に利用され、ひまわりバスが「支線系」のバスとして**買物や通院**などの日常的な移動という機能分類が成り立っている。
- チョイソコという新しい移動手段により、新たな外出が一定程度生まれている。

結果からの課題等

- 今後高齢化が進む中で、自由目的の移動が増加すると見込まれ、「買物」や「通院」などに対応可能な移動手段の提供が必要となる。
- 公共交通の利用による感染リスクについての正しい情報を周知すること、その情報を正しく理解してもらえるようにすることが必要となる。
- **生活スタイルの変化に合わせた交通システムのあり方**について、検討することが必要となる。
- 策定予定の地域公共交通計画では、チョイソコ等の新しい移動手段の組み込みや、福祉施策との連携を目指した、**公共交通の役割**を整理していく。



- ◆ 調査結果より、網形成計画での評価項目の中のアンケート調査で評価する各種目標について、現状では目標値に届いていないことが確認できた。また、「公共交通をはぐくむ地域主体組織の組織数」などをはじめ、現況から考えると目標に届いていない指標は未だある。
- ◆ 今後は、現計画目標の達成を目指しながら、4月以降に地域公共交通計画の基本方針を決めたうえで、令和4年3月までに計画の策定を目指していく。計画の基本方針については、**次の上位計画・関連計画との整合性**を図る。

▼第5次豊明市総合計画（2016～2025年度）
めざすまちの姿 8.「交通の利便性がよく、市外から人が移り住んだり、通勤・通学している」との整合

めざすまちの姿

8. 交通の利便性がよく、市外から人が移り住んだり、通勤・通学している

■ 現状と課題

本市では、公共施設巡回バスとして市内をひまわりバスが3台で5路線運行しています。運行経路は利用者の利便性やニーズに即して地域公共交通会議で改善し、利用者数もわずかながら増加傾向にあります。今後は、公共交通機関の事業者と連携し、交通空白地域の解消や高齢者の外出促進を検討する必要があります。また、洗済や環境共生という観点からも公共交通機関の積極的な利用を促し、利用率の向上を図ることも重要です。

また、本市の都市計画道路は27路線で総延長51,680mが都市計画決定されており、うち21路線で整備が完了しています。また、計画通りに幅員が整備されている改良済の道路は合計40,180mで、改良率は77.8%となっています。未改良の道路は全て幹線道路で重要な位置づけのものです。特に、本市を東西に通過する国道1号は片側1車線であるため慢性的な渋滞が発生しています。北部で整備予定の名古屋回廊も重要な位置づけとなっており、大根若王子線と合わせて早期整備が望まれます。また、桜ヶ丘遊歩線は前後駅から国道23号までの間道は交通形態が大きく変わることが予想されるため、周辺地域対策が課題となっています。

▼豊明市立地適正化計画（2020～2040年度）
誘導方針③「都市機能が集積する拠点への円滑な移動を可能にする公共交通網の連携・充実」との整合

- (3) 誘導方針
- 都市機能が充実した拠点形成や居住の集積、拠点間を結ぶネットワークが構築された都市構造を=目指すための誘導方針を策定します。
- ①「第3次豊明市都市計画マスタープラン」の拠点の位置づけに即した都市機能の積極的な誘導・集積
- 都市拠点である前後駅周辺と市役所周辺の他、その他の拠点である「京競馬場前駅周辺、豊明駅周辺、地域の中心となっている場所」、商業・医療・福祉施設などの生活利便施設の立地を誘導し、利便性の高い拠点を形成します。
- ②都市機能が集積する拠点の高密度や、既に都市機能が立地している地域への居住の誘導
- 「前後駅周辺と市役所周辺」といった都市拠点の周辺や、豊明市公共交通の沿線で都市機能がある程度立地している地域へ居住を誘導することで、人口密度を維持・確保し、都市機能を発揮します。
- ③都市機能が集積する拠点への円滑な移動を可能にする公共交通網の連携・充実
- 利便性が高く都市機能が集積した拠点を結ぶネットワークを構築するため、基幹的な公共交通網を中心に充実を図ります。また、それ以外の地域でも地域ニーズに合った交通を充実させ、市民の拠点への移動機会を確保します。

▼第3次豊明市都市計画マスタープラン（2017～2026年度）
目標②「拠点の利便性を高め、多様な移動手段を確保する」との整合

目標② 拠点の利便性を高め、多様な移動手段を確保する

鉄道駅や市役所等の周辺において、日常的な生活利便施設等が立地する拠点の形成を図るとともに、居住機能の集積を高めます。また、多様な居住ニーズに対応した質の高い住宅地と生活利便施設を備えた新たな市街地の形成を計画的に進めます。

これらの地区を公共交通や徒歩・自転車などで移動しやすくすることにより、利便性が高く、多様な交通手段で移動できる都市づくりを進めます。

▼第2次豊明市地域福祉計画（2020～2024年度）
基本目標4「みんなが支え合うまちをつくる」(1)「支え合いを広げ、強固なものにする環境づくり」の行政の取組との整合

No.	取組	内容	担当課
90	ひまわりバス	ひまわりバス利用者のニーズを踏まえ、路線やダイヤの見直しを検討します。また、ひまわりバス利用者拡大を図るため、各種利用促進策を実施します。	企画政策課
91	予約型乗合タクシー事業の実施	高齢者等、外出に不便を感じている市民の生活維持と健康増進を図るため、外出目的と目的地への移動手段をセットにした予約型乗合タクシー事業の導入を検討します。	企画政策課

- 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、「豊明市地域公共交通計画」で定める計画の目標、基本方針及び目標を達成するために行う事業・実施主体など、令和3年度中に関係者との協議・調整を実施し、計画案を作成する。
- 計画案を基に地域懇談会や、パブリックコメント等を通じて、住民や利用者等からの意見を聴取し、反映させた計画を策定する。
- 多様な主体で構成する豊明市地域公共交通活性化協議会における協議・調整を踏まえて策定し、策定後は当協議会で計画の評価・検証及び改善にかかる検討・実施を行う。
- 本市の課題を明確にした上で、まちづくりや福祉施策と連携することで、おでかけしやすいまちを目指す。

【スケジュール (予定)】	2020年度						2021年度												
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ニーズ把握 (アンケート等)	■																		
問題点・課題の整理				■															
基本方針・目標の検討							■												
目標の実現のための施策の検討									■										
計画案の作成											■								
住民利用者等からの意見聴取・反映 (パブコメ・地域懇談会等)												■							
計画の決定・国への送付																	■		
法定協議会の開催					◆			◆			◆		◆				◆		